

# How to...

## 「3学部合同」理系の3学部が合同で英語を武器に世界に挑む人材を育成

### 京都産業大学

理系3学部が合同で「グローバル・サイエンス・コース」を設置。グローバル化の現状を直視して主体的に学ぶ意識を醸成し、英語を武器に世界に挑む理系産業人を育成する。

#### 英語に対する苦手意識を取り除く

本学の理系学部の学生たちは、どちらかというとおとなしいタイプ。英語でもそれ以外の学びでも、一歩踏み出して「やってみよう」という気持ちを持ってもらうことが必要だと考えています。

そこで、在学留学制度を2001年度から導入し、翌年度からは海外インターンシップも実施。これまで、世界14の国と地域で就業体験を行ってきました。加えて、2013年度には英語教育を大改革。全学共通で、8単位の英語カリキュラムを必修化しました。1クラス20人と少人数制の習熟度別クラスで対話能力を強化。大学が費用を負担して、全学生にTOEICを受検させています。

こうした流れの一つに、2014年度にスタートしたグローバル社会で活躍できる理系産業人の育成をめざす「グローバル・サイエンス・コース（GSC）」があります。入学後に、理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部の3学部の学生から希望者を募り、毎年60人ほどを選んでいます。GSCでは、専門領域に関する知識を世界共通言語である英語で学び、対話能力を育成しています。外国語学部英語学科に設置されている「イングリッシュ・キャリア専攻」と協働して、専門性とグローバルなコミュニケーション能力を兼ね備えた人材を育成します。GSCの運営には、当事者である理系3学部に加えて、英語学習のノウハウと海外との太いパイプを持つ外国語学部の協力が欠かせませ



教授 水口 充

みなくちみつる ●1988年京都大学工学部卒業、2004年京都工芸繊維大学博士課程修了。2008年京都産業大学コンピュータ理工学部兼任、コンピュータ理工学部・大学院先端情報学研究所ネットワークメディア学科教授。博士(工学)。2014年開始のGSCの推進を担当する。

ん。GSCでは、各学部が指定した科目の中から26単位を選択履修することになっています。

将来、研究職等をめざす理系の学生にとって、英語は公用語。論文の作成や発表をする際、英語力は強い味方となるはず。とはいえ、あまり難しく考えず、まずは苦手意識を取り除くことから始めてもらいます。例えば、英語を話せるか聞かれたときに「I can't speak English.」と答えてしまおう。そうではなく「I can speak English a little.」と言えるようになってほしいのです。「下手だけど案外通

じるなあ」と感じてもらうことが大事なのです。立ち上げ当初から「GSCの目的は英語のスキル向上だけではない」と学内で共通認識を持って進めています。というわけで、月1回の定例会をはじめクラブ活動のようなノリで参加できる取り組みもあります。

#### 考え方が大きく変わる学生の意識改革に期待

必修の「英語サマーキャンプ」は、1泊2日の合宿を含む3日間

で行われるかなり過酷なプログラムです。初日は基本的な英語講義を受け、2日目以降はテーマに沿ったグループディスカッション、グループワーク、ポスターセッションを全て英語で行います。2015年度のテーマは「理想の科学の授業とは？」でした。

ここで重視しているのが、「こんな英語でもわかってもらえる」という感覚です。学生たちははじめ、英語がスムーズには出てこないで、日本語で話す場合の3倍以上も時間がかかります。英語で話さなければという強迫観念もあり、心が折れそうになる、まさにブートキャンプです。ただ、苦しい中でもプラス思考に変わっていったり、これをきっかけに英語学習上の課題を見つけたりしています。私たちが狙うのは、こうした学生たちの意識改革です。

GSCの選択科目の中に「海外サイエンスキャンプ」があります。アメリカ・シリコンバレーに8泊10日で出かけ、ハイテク分野で活躍しているエンジニアなどから話を聞くのです。現地で働く人の中には本学の卒業生もいます。身近な先輩の活躍ぶりが学生にとって大きな励みになるようです。この「海外サイエンスキャンプ」では英語の学習はせず、日本語主

体でレクチャーを受け、全員が発言を求められる点特徴です。英語漬けの「英語サマーキャンプ」と、ハイテク分野の先端を覗く「海外サイエンスキャンプ」に参加して、「自分の英語スキルのどこを伸ばせばよいかがあった」と「受け身ではなく、自ら進んで行動しなければいけない」など、考え方が大きく変わった学生もいます。

#### 課題は時間確保 将来は全学への拡大

GSCの初年度は、教職員がテーマ設定やイベントの準備をしました。2年目からは学生主導に切り替え、学生リーダーに運営を任せています。最初は教職員が指導しないと先に進まなかったのですが、最近は学生だけで外国人ゲストを呼んだり、留学生と交流したりしています。また、3つの学部の学生が一緒に学ぶことで、他学部生からよい刺激を受けたり、学部を越えたコミュニケーションが構築できています。

GSCに参加する学生は3学部の学生の約2割。参加しない学生の中には、英語の学習やグローバルな考えに消極的な者もいます。けれども、身近な仲間がGSCでいきいき活動している姿を目の当

**成果**

- ▶ GSCでの活動を通して意識を変革し主体的に動く学生が増加

**課題**

- ▶ 高年次生が参加できるしくみづくり



京都産業大学

▶1965年創設 ▶8学部21学科。学生数約13000人 ▶2015年に創立50周年を迎え、多言語・多文化共生空間「グローバル commons」を設置 ▶2017年4月に現代社会学部を新設

### 京都産業大学(GSC)の4年間のグローバル人材教育計画

黒字:全員必修 青字:希望者

	1年	2年	3年	4年	めざす人材像 英語を武器に世界に挑むことのできる理系産業人を育成 ～専門領域の学びを英語で理解し、論文・発表・会話を通じて自分の考えや研究成果を英語で伝える必要があるのは、「対話能力」「主体性・積極性」「専門性」「アイデンティティの確立」
専門	理学部/コンピュータ理工学部/総合生命科学部 理系専門科目				
主体性・積極性	海外サイエンスキャンプ		海外サイエンスキャンプ発展版(理学部開講)		
アイデンティティ確立	インターンシップ(国内・海外・ハイブリッド)				
語学・留学	英語サマーキャンプ 特別英語科目(外国語学部開講) 短期・長期留学プログラム ※短期語学実習は、夏期はアメリカ、イギリスなど10か国、春期はニュージーランド、オーストラリアなど5か国				